みことばを友に

2020 年 11 月 15 日発行　第 1 号　神言修道会聖書使徒職委員会

「予測不可能な時代を生きる」
出エジプト記 15:22-18:27 に照らされて

この度、世界が予測の出来ない事態を身近に体験しています。言うまでもなく、新型コロナウイルス感染症のことです。この出来事に対して、様々な角度から分析や反省が促されています。人間生活に対するダメージ的な側面もありますが、過去の生活スタイルに対する反省すべき点と捉えれば、より良い未来の方向性が見えてきます。ここで、カトリック信者として、どのようにこのパンデミックを生き抜くべきかのヒントを、旧約聖書に書かれている、かつてのイスラエルの民が 40 年間ものあいだ砂漠で体験したことに照らされて考えてみたいのです。

イスラエルの民の砂漠での体験については出エジプト記 15:22-18:27 に書かれています。イスラエル人はエジプトを出てから約束の地カナンに到着するまで、40 年間も砂漠でさまよわざるを得ませんでした。当然ながら、当時の人たちにとってはよく理解できる出来事でも、また望ましい事態でもありませんでした。しかし、後になって、砂漠での時期は決して無駄なものにはなりませんでした。むしろ砂漠での体験は民のアイデンティティを確定したものだとも言えるほど大切な時でした。では、長い間、砂漠で民はいったい何を体験したでしょうか。

まず、**砂漠で民自身は人間の弱さを実感しました**。人里からはるかに離れた砂漠では、日常生活に必要なものは不足していて（16:1-3; 17:1-3)、野獣や敵といった危険にいつも襲われてもおかしくありませんでした。その厳しい状態で民は肉体的に苦労したことに加え、精神的にも疲れを強いられた結果、信仰を試されました。神は本当にどこにいるのか、神は全能の方なのか、神は我々を忘れてしまったのか、等々と神に対する疑いは

度々ありました。少なくとも一度、民は以前の奴隷の状態に戻した方がましだと考えました。イスラエルの人々は言いました。

「*我々はエジプトの国で、主の手にかかって、死んだ方がましだった。あのときは肉のたくさん入った鍋の前に座り、パンを腹いっぱい食べられたのに。あなたたちは我々をこの荒れ野に連れ出し、この全会衆を飢え死にさせようとしている・・・また、民はモーセに向かって不平を述べた。なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渇きで殺すためなのか*」*(16:3； 17:3)*。

次に、まさにその砂漠で、**神が「怒るにおそく慈しみ深く」、「いつも共にいる」方だと民は実感しました**。敵に襲われたとき、神は戦い、水が足りないとき、神は岩から水を与え、パンがないとき、神は天からのマンナを与えてくださいました。人間は自分の予測や計画に頼ることはできませんでした。次に何が起こるかを予測することの出来ない砂漠のような環境に置かれたイスラエルの民は、物事に対する理解の限界や自分自身の弱さを体験する反面、神の偉大さを実感しました。

この度パンデミックを予測の出来ない事態として身近に体験している世界の人々、特にキリスト者のわたしたちも、時には肉体的、また精神的な疲れを感じ、神に対する疑いや不平を述べるかもしれません。実に信仰の観点から言うと、非常時だけではなく、この世界の状況、また人間のいのち自体、常に不確定なものです。詩篇も予測の出来ない人間のいのちについて語っています。「*人の生涯は草のよう。野の花のように咲く。風がその上に吹けば、消えうせ、生えていた所を知る者もなくなる*」(詩編 103:15‐16)」と。また「*わたしはわたしの命を織物のように巻き終わり糸から切り離されてしまった*」(イザヤ 38:12) と。

不安定なこの世だからといってキリスト者はいつも不安に包まれるのではなく、むしろ岩のように確固とした神の手にゆだねるよう招かれています。かつて神は人間の理解を超えるほどの砂漠での困難や試練を通してご自分の民を教育しました。今日、理解しきれないこのパンデミックを時代のしるしの一つとして体験しているわたしたちも、神の一人ひとりに対する望みを探る必要があるでしょう。

「ワインを飲むことについて」聖書にはどのように書かれているのか？

聖書はワイン（ぶどう酒）を飲むことについてどう書いているのか。勧めているのか、禁止しているのか。聖書箇所を確認してみよう。

① まず、聖書によれば、ぶどう酒は麦とオリーブ油と共に日常の食生活の必需品である。イサクは息子ヤコブを祝福する時に、神が我が子に「穀物とぶどう酒」を豊かに与えるようにと祈った（創27:28）。モーセはイスラエルに、もしも彼らが契約を守るならば、神は「土地の実り、すなわち穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油など」で祝福してくださる（申命記 7:13）と言った。水が少ない地域で、ぶどう酒は生きていくための必需品であり、神の祝福のしるしとなっている。一方、樽の中のぶどう酒が乾くことやぶどうの木の蔓が枯れることは神の裁きの象徴とされている（イザ 24:7）。

② 他方、聖書はぶどう酒を飲むことの危険性をも取り上げている。創世記によれば、初めてぶどうの栽培をしたノアは、ぶどう酒を飲んで、酔ってしまい、とんでもないことをやってしまった（創 9:18-28）。聖書では度々ぶどう酒の飲み過ぎに注意を促している。箴言によれば、ぶどう酒や強い飲み物が人を堕落させる危険性があり、人を知恵に導くことはない（20:1）。ぶどう酒を愛する人は豊かになることはない（21:17）。ぶどう酒で酔う王は義務を忘れ、苦しむ人の訴えを曲げてしまう危険性がある（31:4-5）。また、預言者アモスは大きい杯でぶどう酒を飲む人を強く非難した（アモ 6:6）。

③ しかし同時に、箴言は苦悩の中にいる人がその悲惨な状況を忘れるために、ぶどう酒を飲ませれば良いとも提案している（31:6-7）。また、ぶどう酒を薬として飲むことを勧める助言もある。テモテへの手紙は、胃腸のためや度々起こる病気のために、水ばかり飲まないで、ぶどう酒を少し飲むと良いと勧めている（1 テモ 5:23）。また、良きサマリア人の話にあるように、ぶどう酒は油と一緒に傷の治療にも使われていた（ルカ 10:33）。

④ 宴会はぶどう酒なしには物足りない。コヘレトによれば、「ぶどう酒は人生を楽しむため」に欠かせない（10:19）。カナの婚礼でぶどう酒が足りなくなった時に、イエスの母はその状況を解決するようにイエスに促した（ヨハ 2:1-11）。イエスは水を大量のぶどう酒に変えられたが、それは終末論的豊かさを現すしるしとして理解されることもある。預言者イザヤが語っているように、「万軍の主はこの山で祝宴を開き、全ての民に良い肉と古いぶどう酒を供される。それは脂肪に富む良い肉と選り抜きのぶどう酒」（25:6）。

⑤ 一方、聖書に登場するカリスマ的な人物が、ぶどう酒を飲むことを完全に放棄することもある。モーセの兄弟アロン（レビ 10:9）、サムエル（サム上 1:11）、洗礼者ヨハネ（ルカ 1:15; 7:33）などはぶどう酒や強い酒を口にしない。他方、イエスは度々宴会に参加し、「大食漢で大酒飲み」と非難された（マタ 11:19）。使徒 2:13 やサム上 1:13 の話にあるように、ぶどう酒を飲むこと、ましてや酔ってしまうことは良い印象ではない。パウロはエフェソの信徒に「酒に酔いしれてはなりません」と促している（エフェ 5:18）。また、教会の奉仕者は「大酒を飲まず」（1 テモ 3:8）、監督者は「酒におぼれず」と書いている（テト 1:7）。

このように、聖書にはワインを飲むことを勧める箇所もあれば、飲みすぎに厳しく注意する箇所もある。また、飲まないことを徳として描く箇所もある。いずれにせよ、イエスが杯に入ったぶどう酒をご自分の血、契約の血、罪の赦しのために流される血とする（マコ 14:22-25; マタ 26:26-29; ルカ 22:14-23）ことによって、ぶどう酒を飲むという日常的な出来事に日常を超えた側面が展開されていることは明らかである。

聖書クイズ（答えは 7 ページ目にあります）

Q1 聖書の中で一番長生きしたとされる人はだれ？

Q2 聖書の書物の中で、最も章数が多いのはどの書？

Q3 最も短い聖書の節はどれ？

聖書週間のすすめ

日本のカトリック教会は毎年 11 月の第三日曜日からの一週間を「聖書週間」としています。今年は 11 月 15 日〜22 日で、2020 年 5 月 24 日から 2021 年 5 月 24 日がラウダート・シ特別年であることにちなみ、「あなたはたたえられますように」(「ラウダート・シ」の日本語訳）がそのテーマとなっています。カトリック中央協議会からお知らせが出されており（https://www.cbcj.catholic.jp/2020/10/28/21418/)、毎年作成されているリーフレット「聖書に親しむ」の PDF 版も同ページからダウンロードできます。

この聖書週間に、例えば以下のような聖書箇所を毎日一つずつでも読んで味わい、回勅「ラウダート・シ」のテーマである、連帯と正義に基づく人間と全被造物の調和およびその造り主である神の業を心にとめながら黙想し、祈りに反映させてみてはいかがでしょうか。

創世記 1:1-2:3

神はお造りになったすべてのものをご覧になって、良いものとされ、祝福されました。その中でも人は特別に神ご自身にかたどられ、神ご自身に似せて造られた尊い存在です。

創世記 2:4-25

人の内には、神の息が息づいています。また、人は対等な者としてお互いに助け合うように造られました。神は人をただ造っただけではなく、生きるに必要なものをも造り、使命と掟も与え、「人間らしく生きる」ようにと配慮されています。

聖書クイズ

Q4 聖書の言葉に由来する「猫に小判」と同じ意味の慣用表現は？

Q5 干支の動物のうち、聖書で言及されているのはどれ？

ヨブ 10:1-22

私たちは喜びや賛美だけで毎日を過ごすことはできないでしょう。ヨブは苦難のあまり、自分が神に造られたこと、命を与えられたことまで呪います。しかし、それでもヨブは神への信仰を持ち続け、神に呼びかけることを止めません。

詩編 104

自然界に目を向けるとき、私たちはそこに神の創造の業を見出すことができます。被造物のすばらしさは、神のすばらしさを表しています。

イザヤ 40:27-31、41:17-20

造り主である神は、ただ私たちを造られただけでなく、絶え間なく支え、必要な恵みと力を与え続けて下さる方です。

知恵の書 11:23-26

神はご自分が造られたものを愛され、いとおしまれます。私たちも世界のすべても神に愛されているものです。私たちの目に、世界はどのように映っているでしょうか。

マルコ 10:1-12

人を造られた神は、人が個々別々に孤立するのでなく、夫婦・家族・友人や様々な共同体の中で生きるようにされ、その関係そのものを祝福しています。私たちはその関係を大切にしているでしょうか。

ヨハネ 1:1-18

キリスト者としての私たちの信仰は、すべてを「ことば」によって造られた方が、その「ことば」すなわち御子イエス・キリストを私たちのもとに遣わされた、ということを宣言します。それは私たちにとって「恵みの上に、更に恵みを受けた」出来事です。

使徒言行録 14:8-18

自分自身も、他の誰も、たとえどんなに素晴らしい人物であっても、創造主である神と並ぶ者ではあり得ません。神のすばらしさ、偉大さをたたえるとき、私たちは同時に自分の弱さを受け入れ、謙虚さを持ち、感謝します。

ローマ 1:18-23

もし本当に私たちが被造物を通して神の働きに気づき、神を知るなら、それにふさわしい感謝と生き方につながるはずです。

2 コリント 5:11-21

私たちは神によって造られたものですが、キリストと結ばれて、新たな創造にあずかるものとなります。キリストと共に死に、キリストと共に生きるとき、私たちはまったく新しい命を生きることになります。

コロサイ 1:13-20

この世界も私たちも、造られたものとして不完全さがあり、罪があり、弱さがあり、造り主である神にふさわしいものではありません。しかし、神は万物を御子において造り、万物を御子によってご自分と和解させられました。

1 テモテ 4:1-5

私たちが避けたり、嫌ったり、退けたりしている物事や人は、本当に悪いものではないかもしれません。神がお造りになった良いものであるのに、自分の勝手な考えで否定しているものがないでしょうか。

聖書クイズ 答え

Q1 メトシェラ（969 才；創世記 5:27）。続いてヤレド（962 才）、ノア（950 才）、アダム（930 才）の順となります。

Q2 イザヤ書（66 章）。エレミヤ書 は 52 章、創世記は 50 章です。詩編は 150 編、第二正典（新共同訳の続編）だとシラ書が 51 章。

Q3 ルカ 20:30 の 3 語「（そして）次男、（καὶ ὁ δεύτερος）」。一テサ 5:17 はギリシャ語だと 2 語（ἀδιαλείπτως προσεύχεσθε）ですが、日本語訳の「絶えず祈りなさい」と同様、文字数は長くなります。

Q4 「豚に真珠」（マタイ 7:6）。「目からうろこが落ちる」という表現もパウロの回心の場面に由来します（使徒 9:18）。

Q5 鼠（イザ 66:17 など）、牛（ルカ 15:23 など）、兎（レビ 11:6 など）、竜（詩 148:7 など）、蛇（創 3:1 など）、馬（使徒 23:24 など）、羊（ヨハ 10:3 など）、猿（王上 10:22 など）、鶏（マコ 14:72 など）、犬（マタ 7:6 など）、猪（詩 80:14）。虎だけがありません。

本の紹介

小泉健 著『主イエスは近い クリスマスを迎える黙想と祈り』（日本キリスト教団出版局、2019 年）

待降節からご公現まで、毎日の聖書の言葉、関連するメッセージ、そして祈りがそれぞれ見開き 2 ページに収められおり、1 日 5〜10 分程度の黙想を行う助けとなります。

A. E. マクグラス 著、本多峰子 訳『旧約新約聖書ガイド 創世記からヨハネの黙示録まで』（教文館、2018 年）

専門書のような詳しさはありませんが、一冊で旧約新約の 66 書を網羅する注解・解説として便利です。聖書人名小事典、地名小事典付きです。

後記

「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」（マタイ 4:4）と言われます。多くの方がみことばに親しみ、みことばと共に毎日を歩むきっかけとなることを願って、聖書週間に合わせて小冊子を発行することにいたしました。手に取っていただけると幸いです。

お知らせ

神言会の聖書使徒職委員会ではホームページを開設し、毎主日の聖書朗読箇所についての黙想のヒントなどを掲載しています。また記事の更新を twitter を通してお知らせしています。どうぞご活用ください。

神言会聖書使徒職委員会ホームページ
http://svdjpba.net/

聖書使徒職委員会 twitter アカウント
https://twitter.com/svdjpba

2020 年 11 月 15 日 発行
カトリック神言修道会 聖書使徒職委員会